

令和2年12月23日朝礼

今日は、読書感想画と赤い羽根作品コンクールの表彰をさせていただきました。赤い羽根共同募金は「困ったときはお互い様」の精神から始まったそうです。募金活動も行われていたので募金をした人も多かったと思います。

ところで、皆さんは、身の回りで、困っている人を見たときにどうしますか？やさしい皆さんのことですから、きっと「助ける」「お手伝いをする」と言う人も多いと思います。私も今までに、皆さんが学校の中でも、困っている人を助けている場面をたくさん見て、皆さんのやさしさにとてもうれしく思っています。

でも、一口に「困っている人」と言っても、世の中にはたくさんいると思います。どんな「困っている人」がいるか、皆さん想像がつかますか？地震や台風などの災害に遭って、家などが壊れて困っている人、病気になってしまった人、交通事故に遭ってけがをしてしまった人…本当にたくさんの方がいると思います。

自分に余裕があるときに「助ける」ことができる人はたくさんいると思います。でも、自分も大変な時に相手を「助ける」ことは、なかなか大変なことです。私はこんな話を聞いたことがあります。大きな地震があって、まわりの家がみんな壊れてしまって、多くの方が学校の体育館に避難しました。そのうち、食料もなくなってきました。おなかですいたなと思ったとき、ようやくおにぎりが配られました。でも、数が全然足りなくて、その人も、ようやく家族4人で1つだけおにぎりをいただくことができました。4人で1つのおにぎり。それでも何とか4人で分けて食べることができる。そう思ってふとまわりを見てみると、となりの家族は、おにぎりが足りなくなって、いただくことができませんでした。となりの家族には小さな子もいました。そこでその人は、おにぎりを半分、その家族にあげたそうです。となりの家族の人は、「ありがとうございます」と何度も言って受け取ったそうです。このような話はたくさんあったと聞いています。お互いが大変な時に、人にやさしくできるのは、本当に素晴らしいことだとその時私も思いました。

今年は、特に新型コロナウイルスの流行で、大変な思いをしている人、不安に思っている人がたくさんいます。こんな時こそ、「困ったときはお互い様」の気持ちを忘れずに生活したいものだと思います。困っている人を見つけたとき、自分が何をできるのか、考えて実行できるようにしていきたいものですね。

今年もあと少しになりました。新しい年がお互いによい年になることを心から願っています。